

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 **最終**)

呉中央中学校区 校番13 呉中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>④ 生ききる根っこを育てる「豊かな学び」の創造</p>	<p>④ 「主体的、対話的で深い学び」の実現と基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>授業の中で「思考し表現している」という項目に肯定的な回答をした生徒の割合は91%で、目標の90%を上回っている。また、昨年度の課題であった学年ごとの差は、今回の結果では見られなかった。 総合的な学習の時間についての「社会や身近な人のためにできることをしている」というアンケート項目に対する肯定的な回答の割合は98%で、目標値の85%を大きく上回っている。今年度実施した学園文化フェスタに向けての取組による成果が大きいと考えられる。 「学力調査・定期試験(国・数・英)における通過率30%以上の生徒の割合」は93%で、目標値の90%を上回っている。 「各学年の家庭学習目標時間の達成率の割合」は66%で、目標の65%を上回った。昨年と同時期と比べると11ポイント上昇しており、大きく改善している。</p>	<p>学園授業スタイルに基づいた探究的な活動や思考過程の工夫による授業改善をさらに進めるため、授業で思考・表現する場面を意図的に設定していく。 学園フェスタに向けての取組において、探究的な活動を行うことができた。今後は、各教科等の授業においても、探究的な活動や思考を促す発問を積極的に取り入れていく。 各教科の授業や家庭学習において、Qubana(タブレット教材)を効果的に活用し、各自の学力に応じた最適な学習ができるよう支援していきたい。 連絡ノート(スタンダード)や試験計画表等を活用して、教師が生徒の家庭学習の進捗を把握し、適切な指導を行っていく。</p>
**	<p>④ 生ききる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造</p>	<p>④ 「自己指導能力」を高める。</p>	<p>「あいさつ」「返事」「時間」「掃除」に関するアンケートにおいて、肯定的な評価をした生徒の割合は、中間評価のときと同様に、全てにおいて95%を上回っている。中学校生活を送る上でこの根本となるこれらの指標が、高水準で推移していることで、落ち着いた生活が送れていることが読み取れる。「授業や掃除の始まる時刻を守ること」に対しては、ほとんどの生徒が守れていて、ノーチャイムで行動することに対する意識は、高く保たれているといえる。 「自分には良いところがある」と思っている生徒の割合は89.4%で、中間評価のときが87.4%であることから、自己肯定感がわずかながら向上していることがわかる。各種行事を通した取り組みなどが、じわじわと効果を上げてきたことがうかがえる。</p>	<p>基本的な生活習慣に関わる指導を、継続して行っていくことで、習慣化されている現状は維持できると、中間評価のときに考えて達成できたので、これは継続していく。個人面談の機会を確保する取組に関しても、生徒の情報を細やかに受け取ることに効果を上げているので継続する。 今年度、コロナ禍を経て復活した校外学習や各種集会、新規の取組である呉中央フェスタなど、生徒が活躍できる場が増えたことが生徒の自尊心を高める機会となることが確認できたので、働き方改革との兼ね合いもあるが、何とか機会を維持していきたい。</p>
*	<p>④ 生ききる根っこを育てる「しなやかな体」の育成</p>	<p>④ 基本的な生活習慣の定着と体力・運動能力の向上を図る。</p>	<p>三点固定に関して、中間評価のときよりも4ポイント程度低下している。「メディアコントロールができていない」という項目が73.3%であることから、メディアコントロールがうまくいっていない生徒が、三点固定ができていないとみられる。学年が上がると、メディアの使用が増えてしまう生徒が増える傾向にある。 前年度よりも記録が伸びた生徒は、50m走では男子93%、女子78%であった。20mシャトルランでは、男子79%、女子74%であった。昨年に比べ、50m走の結果が向上した生徒の割合が高い。特に男子は昼休憩に外遊びをする生徒が多いためと思われる。</p>	<p>養護教諭によるメディア使用に対するチェックや、メディア使用による悪影響に関する講義などの取組は細やかに行っている。このことにより、何とかB評価を保てているともいえるので、学活や道徳などとの連動や保護者との連携を深めて、より効果的な活用方法を模索していきたい。 昼休憩のボールの貸し出しを、体育委員の取り組みとして継続的に行っている。昼休憩時に外遊びをしているのは男子の方が多いが、女子はバレーボールを使っている生徒がおり、運動する機会が増えている。体育の授業や部活動においても、走トレニングを継続して行っていく。</p>
業務改善	<p>④ 業務改善を進め、元気で明るい職場を実現する</p>	<p>④ 生徒と向き合う時間を確保する。 ④ 長時間勤務の縮減を図る。</p>	<p>生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合は94%と目標を大きく上回った。日々の地道な取組の成果が実感として表れていることがうかがえる。 時間外勤務が45時間以下の教職員の割合は、66%と前回よりは改善しているが、目標には届かなかった。10月、11月と今年度初めての行事があったためと考えられるが、それでも前回より改善しているのは、長時間勤務縮減の意識が浸透してきていると考えられる。</p>	<p>4月からの、朝、生徒を教室で迎える取組や、スタンダード全員提出の取組により、生徒の変化を捉えたり、悩みに気づいたり、それを解決に導くことができたことが、先生方の「生徒としっかり向き合っている」という実感に結びついていると考えられるので、今後も学校全体で取組を継続する。 個々の退校目標時間設定や、定時退校日の呼びかけなど、引き続きお互いに声を掛け合い、教職員全体で取り組む。</p>